

Howa MODEL 55G

(CO₂)ガスライフル

————— 取扱い手引き —————

この銃をご使用になる前に必ずお読み下さい。



豊和工業株式会社

取扱い注意事項

警告

危険防止のため、次に書かれた注意事項を必ずお守り下さい。
これらの注意事項を守らない場合は、使用者や周囲の人を巻き込んだ人身事故につながる恐れがあります。必ず指示に従って取扱って下さい。

- ①銃を取扱う際は常に弾が装填されていない事を確認して下さい。
 - ②いかなる場合でも銃口を人に向けてはいけません。銃口は常に安全な方向へ向けておいて下さい。
 - ③常に銃腔に異物が残留していないか確認して下さい。
 - ④必ず使用する銃に適正な口径のライオン印ジェット弾をご使用下さい。他社製空気銃弾のご使用は弾詰まり等の故障の原因となりますので、ご使用にならないで下さい。
 - ⑤射撃する際は常にシューティンググラス等で眼を保護して下さい。
 - ⑥決して銃に弾を装填したまま及びポンベを入れたまま保管、放置しないで下さい。
 - ⑦飲酒や薬を服用したときは銃や弾を取扱ってはいけません。
 - ⑧射撃を一時中止するときは必ず銃身から弾を抜いて下さい。弾を抜かずに安全装置を掛けたままで放置しないで下さい。
 - ⑨他人の銃には絶対に触れないで下さい。また、他人には自分の銃を触れさせぬように注意して下さい。
 - ⑩故障が発生した場合は無理に分解せず、最寄りの銃砲店にご相談下さい。
- ※巻末の「安全な狩猟のために」も併せてお読み下さい。

お願い

この度は、豊和モデル55Gライフルをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
この銃を安全にご使用いただく為に次の事をお守り下さい。

- ① 銃をご使用になる前には、必ずこの「取扱い手引き」をお読み下さい。
- ② この「取扱い手引き」はお読みになった後も、銃と共に大切に保管して下さい。
- ③ この銃を譲渡される場合には、次に所持される方の為に必ずこの「取扱い手引き」を添付して下さい。
- ④ 万一、この「取扱い手引き」を紛失された場合は最寄りの銃砲店へご注文下さい。実費にて配布致します。
- ⑤ 不明な事柄については最寄りの銃砲店へお問い合わせ下さい。

警告表示について

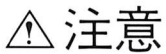
この「取扱い手引き」の中で特に重要な注意事項については、次の3種類の警告表示をつけて記載してあります。これらの警告の意味を充分理解して、指示に従って下さい。



注意事項を守らないと、重傷や死亡をもたらすであろう差し迫った危険に適用しています。



注意事項を守らないと、重傷や死亡をもたらす恐れのある危険や不安全行動に適用しています。



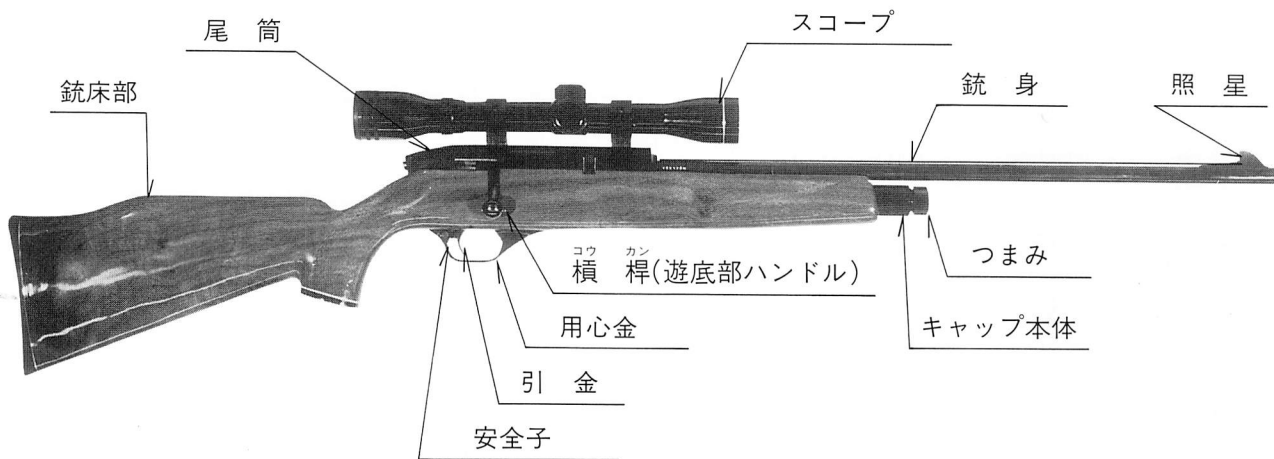
注意事項を守らないと、軽傷や製品その他の財物損壊をもたらす恐れのある危険や不安全行動に適用しています。

※この「取扱い手引き」の中に記載されている前後左右の示す方向は、射手が射撃姿勢で銃を保持している時を基準とします。

■ 目 次 ■

豊和モデル55 Gライフル主要外部名称……	1	2. 照準具	
第1章 総説		(1)各部の名称……	12
1. 主要諸元……	2	(2)スコープの調整方法……	13
2. 部品の名称……	3	(3)焦点の合わせ方……	14
第2章 構造及び機能		(4)照星、照門の調整方法……	14
1. 取扱い操作		第3章 分解・組立て及び手入れ方法	
(1)安全装置の操作……	5	1. 弾詰まりのときの点検要領……	15
(2)ポンベの装填及び交換手順…	6	2. 組立て上の注意……	15
(3)弾の装填……	8	3. 手入れ、保管上の注意……	16
(4)射撃……	9	品質保証とアフターサービス……	17

豊和モデル55Gライフルデラックス主要外部名称



第1図

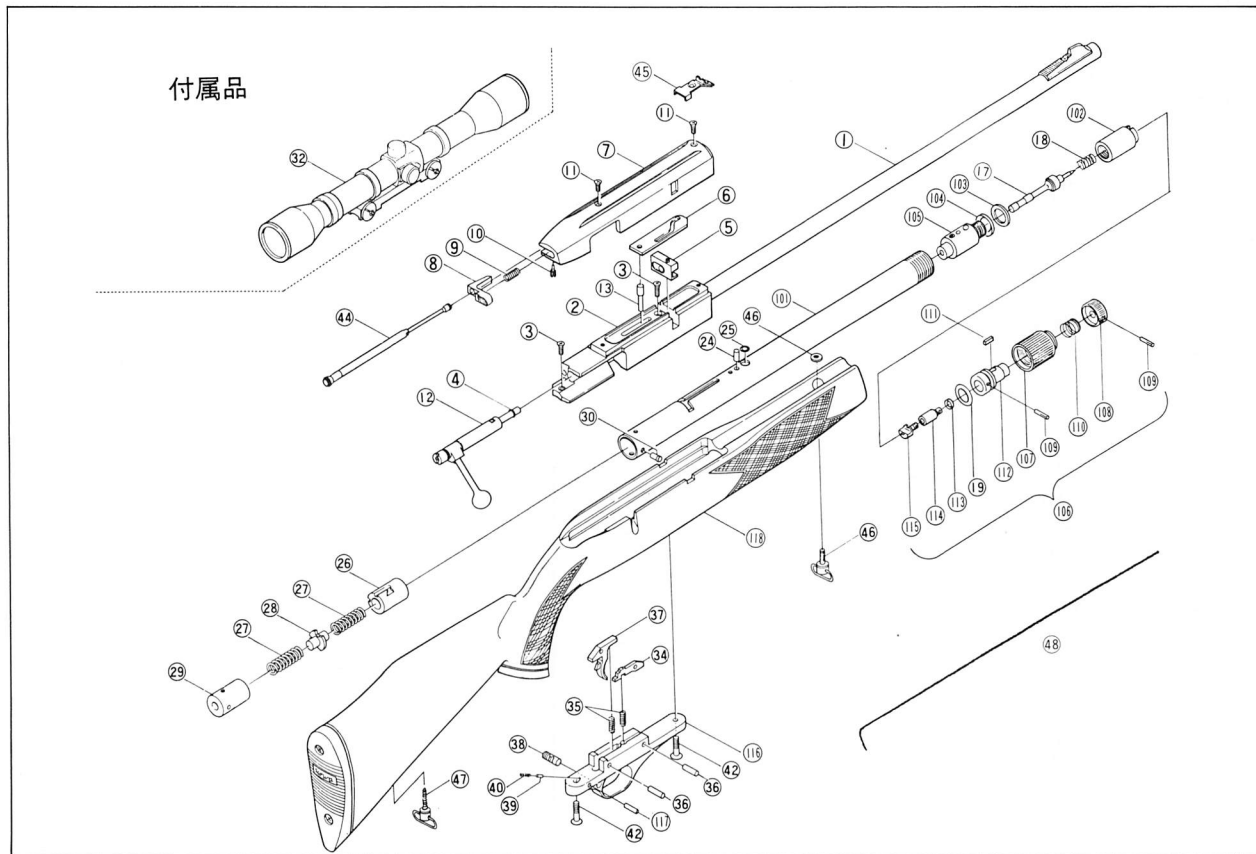
第1章 総 説

1. 主要諸元

口 径	:	5.5 ^{mm} ・4.5 ^{mm}
全 長	:	982 ^{mm}
銃 身 長	:	532 ^{mm}
腔 線	:	エンフィールド型、右転、8条
質 量	:	約2.8kg
弾倉室容量	:	5発
指定使用弾	:	5.5 ^{mm} ・4.5 ^{mm} ライオン印ジェット弾
引金引力	:	約1.5kg
銃 床 部	:	チークピース付、モンテカルロ型
指定ポンベ	:	M55G専用CO ₂ ガスポンベ
付 属 品	:	照星、照門、スコープ、弾抜き棒

※改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

2. 部品の名称



★印部品は口径4,5mmと口径5,5mmの区別有り

①	★銃身	⑩②	弁本体(前)	⑩③	パッキン	⑩④	逆鉤
②	★銃身受け金	⑩⑦	タペット部	⑩④	針押し棒	⑩⑤	引金逆鉤ばね
③	銃身部止めねじ	⑩⑧	弁ばね	⑩⑤	針	⑩⑥	引金逆鉤軸
④	★Oリング(遊底用)	⑩⑩③	押し金	⑩⑥	用心金	⑩⑦	引金
⑤	★給弾板部	⑩④	パッキン	⑩⑦	平行ピン	⑩⑧	安全子
⑥	カム板	⑩⑤	弁本体(後)	⑩⑧	銃床部	⑩⑨	安全子プランジャー
⑦	★尾筒	⑩⑥	キャップ部	⑩④	弁止めピン	⑩⑩	プランジャーばね
⑧	★案内レバー	⑩⑦	キャップ本体	⑩⑤	Oリング(P5)	⑩②	用心金取付ねじ
⑨	案内レバーばね	⑩⑧	つまみ	⑩⑥	撃鉄	⑩④	★弾押し棒
⑩	案内レバー止めねじ	⑩⑨	止ピン	⑩⑦	撃鉄ばね	⑩⑤	照門部
⑪	尾筒止めねじ	⑩⑩	つまみばね	⑩⑧	撃鉄ばね継手	⑩⑥	前部負紐環
⑫	★遊底部	⑩⑪	気密金止めキー	⑩⑨	撃鉄ばね受け	⑩⑦	後部負紐環
⑬	カム作動ピン	⑩⑫	気密金	⑩⑩	ばね受け止めピン	⑩⑧	★弾抜き棒
⑩⑩	エアパイプ	⑩⑨	Oリング(P15)	⑩⑫	スコープ		

※⑩⑥⑦前部及び後部負紐環は別売りとなっております。

第2章 構造及び機能

1. 取扱い操作

(1) 安全装置の操作

安全装置は引金の後部にある安全子で操作します。

この安全子を安全位置にして下さい。

安全位置：安全子が右側に出ています。

発射位置：安全子が左側に突き出て、安全子に赤線が見えます。

警告

- 安全装置は引金を機構上、一時的に仮固定するだけであり、不慮の暴発事故を未然に防ぐものではありません。発射直前まで弾を装填しない事、発射する時以外はたとえ弾が装填されていなくとも引金に指を掛けない事を厳守して下さい。
- 銃から離れるときは必ずはじめに安全子を安全位置にして、充填されているガスを全て放出させて下さい。次に弾押し棒を抜き、弾倉内の弾を全て抜いて下さい。銃身内に弾が装填されている場合は安全子を発射位置にして遊底部を開放し（槓桿を後方へ引いた状態）銃身内の弾を付属の弾抜き棒にて抜いて下さい。

- 安全装置を作動させる時は安全子が正しい位置にある事を確認して下さい。安全子が「安全位置」側にあっても正規の位置でない場合、引金を引くと撃鉄が落ち、暴発事故となる恐れがあります。
- 引金機構の調整、改造は絶対にしないで下さい。お客様自信で再調整された結果、発生した故障、事故については当社は一切の責任を負いかねます。
- 安全装置の操作中、絶対に引金には触れないで下さい。安全子を解除している間に引金を引くと、解除と同時に撃鉄が落ち、暴発事故となる恐れがあります。
- 安全装置のテストは必ず銃から弾を抜いて行って下さい。また、どの操作においても常に銃口は安全な方向に向けるように心掛けて下さい。

(2) ボンベの装填及び交換手順

- a. 案内レバーを押す(第2図)と弾押し棒が飛び出します。弾押し棒を抜き、弾倉内に残弾が無いか、ご確認下さい。

⚠ 注意

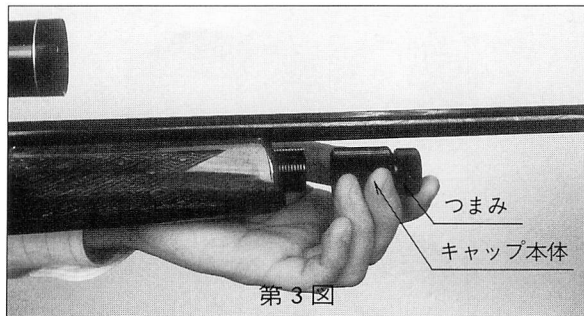
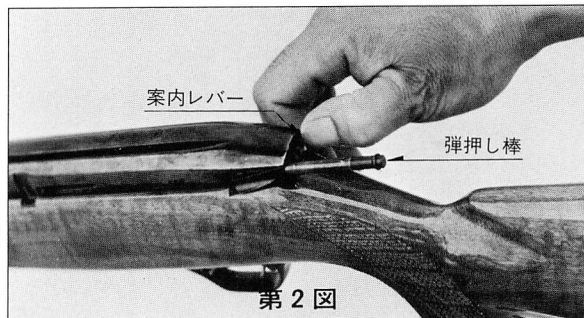
このとき、銃口を下向きまたは水平にして操作してください。銃口を上向きにしますと、弾押し棒が飛び出して破損、紛失することがあります。

- b. 槓桿^{フック}を後方いっぱい^ンに引いて下さい。

⚠ 注意

槓桿が十分後方へ下がっていない状態でボンベを装填すると、ボンベを開封すると同時にガス漏れを起こします。

- c. つまみを赤色矢印の反対方向に止まるまで回して下さい。(エアパイプ内にガスが残っている場合はこの操作でガスが抜けます)
その後、キャップ本体を緩めて外して下さい。(第3図)



⚠ 注意

キャップ本体及びエアパイプの内側にゴミ、泥等の汚れが付着している場合、ガス漏れの原因となることがありますのでご注意ください。

- d. エアerpaiプ内にポンベを第4図の様な向きに2本入れて下さい。

⚠ 注意

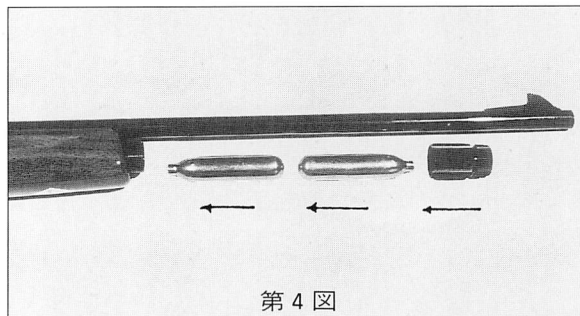
ポンベをエアerpaiプ内へ入れる際、ポンベが第4図の向きになる様、装填方向にご注意下さい。誤った方向でポンベを入れ、操作した場合、部品を破損させる恐れがあります。

- e. つまみを矢印と反対方向に回し、キャップ本体の赤線が隠れていることを確認してエアerpaiプに締め付けて下さい。

⚠ 注意

キャップ本体の赤線が見えるときはポンベを開封する針が突き出ている状態となり、ガスを封入できませんのでご注意ください。

- f. つまみを赤色矢印方向に止まるまで回してください。ポンベを開封します。その際「シュー」という音を確認して下さい。これはエアerpaiプ内にガスが充満する音です。



第4図

- g. 槓桿を閉鎖させて、銃口前方の安全を確認し、安全子を発射位置にセットした後、引金を引いてください。後方のポンベを開封します。
- h. 空ポンベ1本と新品のポンベ1本で使用することも可能ですが、発射弾数は新品のポンベ2本の時よりも減少します。

⚠ 注意

新品のポンベを2本併用する場合、つまみを赤色矢印方向に回すことにより前方のポンベが開封し、次に引金を引く（初弾を発射、もしくは空撃ち）事により、撃鉄が落ち後方のポンベが開封します。従いまして、空ポンベを併用する場合は、必ず先に空ポンベを入れて下さい。空ポンベを後から入れた場合、つまみを赤色矢印方向に回しても後方のポンベは開封しない為、引金を引いても初弾は発射出来ないので二重装填となります。

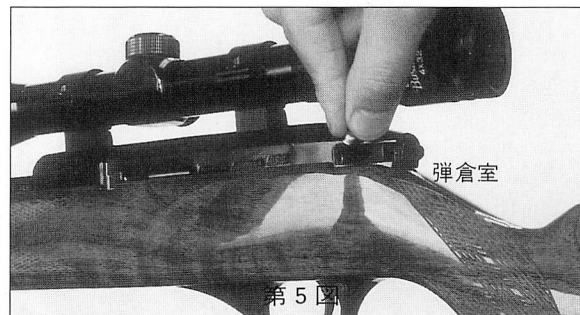
(3) 弾の装填

- a. 尾筒より弾押し棒を抜いて下さい。
(要領はポンベの装填および交換手順参照)
- b. 弾押し棒を抜き取ると案内レバーが内側へ倒れ、案内レバー外側面のU型溝が弾倉室内に接続し、弾の装填口が現われます。弾を弾頭の方より順に、5発以内で必要弾数を装填して下さい。(第5図)
- c. 弾押し棒を案内レバーの穴に差し、最後まで完全に押し込んで下さい。自動的に案内レバーにロックされます。(図6図)

⚠ 注意

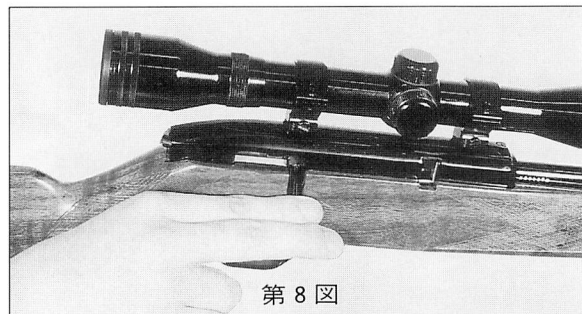
- 弾を装填する際は、1発ずつ確実に装填し、銃左側面の「残弾表示穴」より正しく弾倉室内に装填されているか確認して下さい。
- 指定使用弾以外の弾、及び形状不良の弾は弾倉室内での弾詰まりの原因となりますので絶対に使用しないで下さい。
- 万一、変形した弾を装填したり、ゴミ等の混入により槓桿の操作が重くなった場合は、そのまま無理に閉鎖させず、第3章1項の「弾詰まりの時の点検要領」に従って処置、点検して下さい。

- 弾倉室容量は5発です。
弾倉容量を超えて装填しますと弾押し棒は案内レバーにロックされず、抜け出てきます。



(4) 射 撃

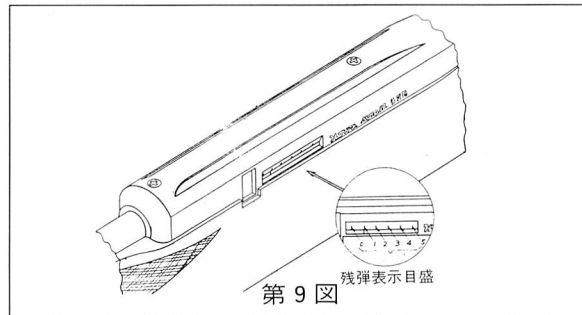
- a. 槓桿をいっぱいまで後退させて下さい。
(第7図)次に前進させて最後はカチッと音がするまで、下方向に回転させて下さい。(遊底部が完全に閉鎖します。)
(第8図)
- b. 安全子を発射位置にセットして下さい。
(これで発射準備完了です。)



⚠ 注意

- 一度遊底部を閉鎖しますと、引金を引かない限り、開放できません。
- 槓桿は1往復する毎に、一発ずつ弾丸を送りますので、前進閉鎖させる途中で後退させないで下さい。
- 途中で後退させますと、故障や弾丸の変形の原因になることがあります。

- c. 弾倉室内の弾丸がなくなると、槓桿は後へ引いた状態で止まります。(遊底部開放状態) これは弾倉室内の残弾が無い表示です。故障ではありません。
弾押し棒を弾倉内より抜くと槓桿の固定は解除されます。
- d. 射撃中弾倉室内の残弾を知りたいときは、残弾表示板の目盛で見て下さい。
(第9図)



e. 射撃を終了した時、もしくは途中で射撃を中止する時は直ちに次の方法で、銃を安全な状態にして下さい。

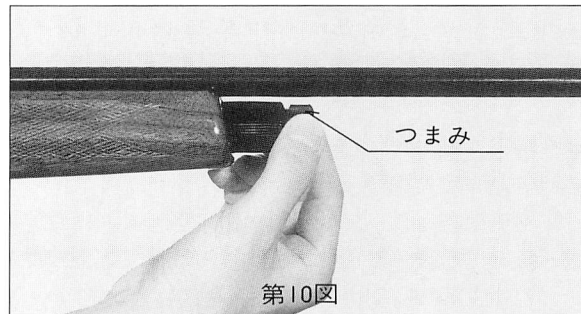
- ①安全子を安全位置にして下さい。
- ②つまみを矢印の反対方向に回し、(第10図) 緩めてエアパイプ内のガスを全部放出して下さい。
- ③弾押し棒を抜き取り、弾倉内の残弾を全て取り出して下さい。
- ④安全子を発射位置にして、遊底部を開放し(槓桿を後方へ引いた状態)付属の弾抜き棒を使用して銃身内に装填された弾を取り出して下さい。

⚠ 危険

銃を安全な状態にする場合、不慮の暴発事故を防ぐ為、エアパイプ内のガスを全て抜いてから弾の抜き取り操作を行って下さい。

⚠ 注意

不必要な長時間のガス充填はゴム、パッキン等の部品に負荷を与え、部品寿命を短縮、故障の原因となりますのでおやめ下さい。



f. 射撃中エアパイプ内のポンペのガスが無くなると(ガス切れ)、発射が不可能となりますので、射撃を継続する場合には約20発程度(気温等により変化します)で新品のポンペに交換して下さい。交換する際には先につまみを矢印の反対方向に回し(第10図)緩めてエアパイプ内のガスを全部放出して下さい。

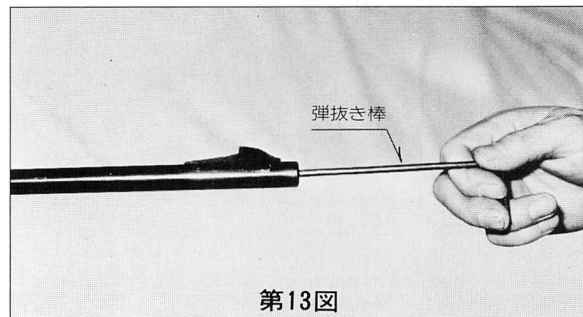
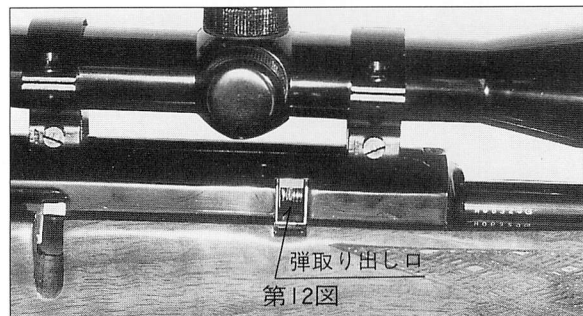
ガス切れ後、射撃を継続する場合は新しいポンペを入れる前に、必ず遊底部を開放し(槓桿を後方へ引いた状態)付属の弾抜き棒を使用して銃身内に装填された弾を取り出して下さい。

⚠ 警告

ポンペを交換する時は、必ず銃口を安全な方向へ向けて操作して下さい。また使用直後のポンペ本体は非常に冷たく、皮膚に張り付く恐れがありますのでご注意下さい。

⚠ 注意

- ガスが抜けた後、弾倉内に残弾がある場合は絶対に槓桿を操作しないで下さい。槓桿を前後させたり、槓桿を閉鎖させる途中で誤って引き戻し、再び閉鎖させますと二重装填する事があります。この場合はガスが全て放出されている事を確認した後、槓桿を一杯引き戻し、銃口より付属品の弾抜き棒を差し込んで弾を突き、銃右側面の弾取り出し口より1発ずつ取り除いて下さい。(第12図)
- 万一、弾抜き棒を使用しても弾が取り除けない場合は無理に差し込むと銃身内の腔線を破損させる恐れがあるため、最寄りの銃砲店にご相談下さい。(第13図)



2. 照準具

このライフルには、スコープと照星、照門の2種類の照準具が付属しております。

(1) 各部の名称

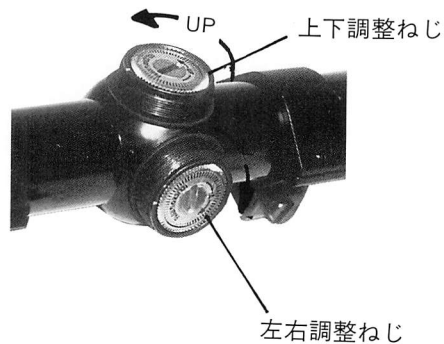
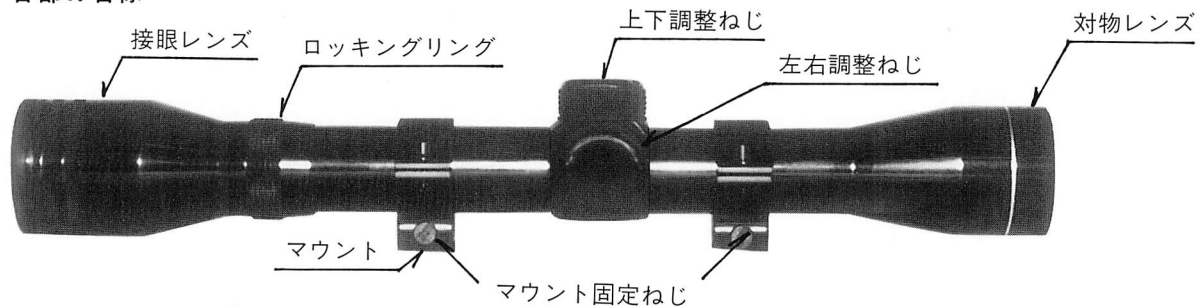


図 A

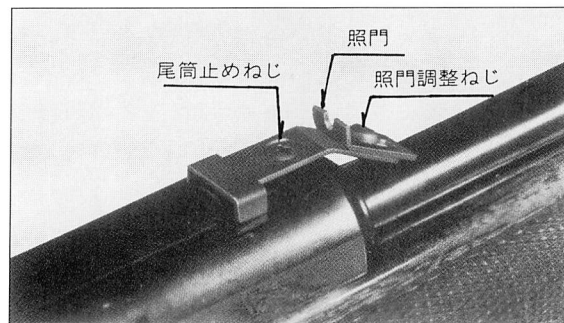


図 B

当社では出荷前に各銃毎に厳格な命中射撃検査を実施しておりますが、お客様ご自身で修正される場合は次の要領で行って下さい。

(2) スコープの調整方法

通常、最もよく射撃する標準的な射撃距離に標的を設置し、これを射撃して命中点を確認しながら次の手順によって調整を行います。

- ①上下左右の調整ねじのキャップを外します。
- ②標的に照準し射撃します。
- ③命中弾痕が標的上の狙い点に対し、どの方向にずれているかを確認し、次の調整を行います。(図A)
 - a. 右にずれている場合は「左右調整ねじ」を「L」表示の矢印方向に回します。
 - b. 左にずれている場合は「左右調整ねじ」を「L」表示と反対の矢印方向に回します。
 - c. 下にずれている場合は「上下調整ねじ」を「Up」表示の矢印方向に回します。
 - d. 上にずれている場合は「上下調整ねじ」を「Up」表示と反対の矢印方向に回します。

a～dの何れの場合の調整量も銃の使用条件（射撃距離、弾速、気温、風等）によって影響されるので一概に正確な調整量を決定する事は出来ません。従って、上記調整を繰り返して行い、狙い点と命中点を合致させる様にします。

尚、銃を肩付射撃ではなく、何らかの方法で堅固に固定する事が出来る場合には、固定して標的に1発射撃し、その弾痕位置へスコープの狙い点が一致するまで左記③項の調整を行えば比較的容易に照準調整が出来ます。

(1) 焦点の合わせ方

- a. 射撃する姿勢で銃をかまえた時、レンズと目の間隔が約 8 cmになる様な位置までスコープを移動させ、マウント固定ねじで固定します。
- b. スコープをのぞき、標的がぼやけて見える場合は次の操作により調整して下さい。
 - ・ ロッキングリングを緩める。(右回し)
 - ・ 接眼レンズ側を左右に回して標的が鮮明に見える様に焦点を合わせる。
 - ・ 接眼レンズ側が移動しない様にロッキングリングを締めて固定する。
(左回り)

(4) 照星、照門の調整方法(B図)

- a. 照門を使用するときは、スコープを外し、さらに尾筒止めねじ(前方のみ)を外し、照門を付けてください。(尾筒止めねじで照門を固定する)
- b. 照門調整ねじを緩め弾着点を調整してください。調整が終了したら、ねじをしっかり締付けて下さい。

第3章 分解・組立て及び手入れ方法

1. 弾詰まりのときの点検要領

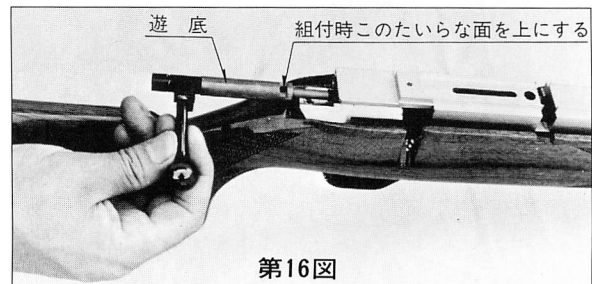
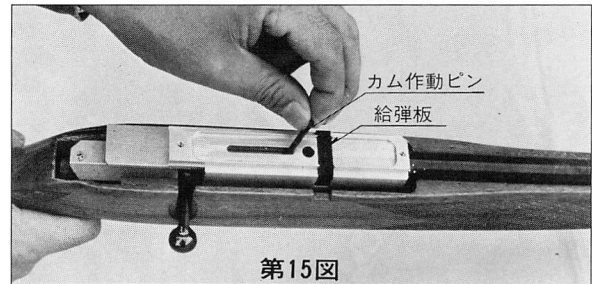
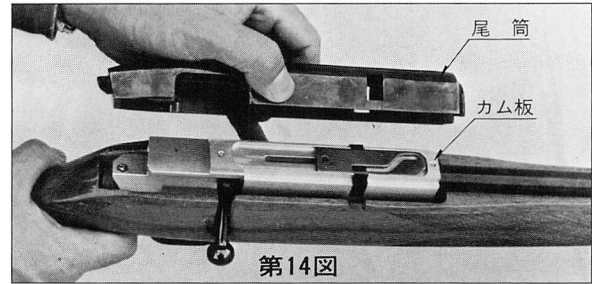
弾詰まり等の原因により、作動不良となった場合は次の手順で分解し、点検して下さい。

1. 充填されているガスを全て放出して下さい。
2. 弾押し棒を抜き、残弾を取り除いて下さい。
3. スコープを外し、尾筒止めねじ(前後2本)を外すと尾筒が上方へ外れます。(第14図)
4. カム板を外し、カム作動ピンを抜くと(第15図)遊底部が後方に抜け、給弾板も外れます。

2. 組立て上の注意

組立て順序は分解の反対順序によりますが、特に次の点にご注意下さい。

1. 遊底部はカム作動ピンのはいる穴位置に一方のみ、平らな面が設けてあります。(第16図)これを上方にして遊底部を一杯に押し込み、その位置でカム作動ピンを差し込んで下さい。(第15図)
2. カム板の組み付けは第14図を参照下さい。



3. 手入れ、保管上の注意

- 1) チリ、水滴等を全般にわたって取除き、ガンオイル等の防錆油を薄く塗布して下さい。
- 2) 銃腔内は薄い油膜をつける程度に手入れして下さい。頻繁に手入れして、腔線を摩耗させないで下さい。
- 3) 油はあまり多く付けないでください。付け過ぎますとゴミが付着しやすくなり発錆の原因になることがあります。
また、Oリングの寿命を縮めることもあります。
- 4) 銃を保管される際はその都度、つまみを緩め確実にエアパイプ内のガスを全部放出して下さい。
ポンペを装填したまま保管すると、ゴム、パッキン等に長時間不必要な負荷を与え故障の原因となります。
- 5) 使用時、用心金取付ねじ、(スコープ)マウント固定ねじが緩んでいない事を確認して下さい。もし緩んでいる場合は確実に締付けを行って下さい。

注意

- ガンオイルは可燃性の製品である為、火気を使用している場所でのご使用はおやめ下さい。ガンオイルをご使用になる前に製品の注意書きをよくお確かめ下さい。
- ボンペに付きましては指定のボンペをご使用下さい。また、高圧ガスを使用した製品である為、高温になる場所での保管は破裂する恐れがあります。取り扱いには十分注意し、直射日光の当たらない場所に保管して下さい。

品質保証とアフターサービス

保証期間

新銃購入後満12ヶ月(所持許可確認日付けより満12ヶ月)以内。

製品に添付されている保証書引替はがきを当社まで返送下さい。折返し保証書を発送致します。

また、日本国外の地域で販売、購入された製品につきましては「品質保証とアフターサービス」の対象外となります。

保証の内容

保証期間内に純正部品に材質上、または製造上の欠陥により不具合が生じた場合は無償で修理もしくは部品交換致します。

非適用事項

保証期間内であっても、下記に該当するものは保証の対象外と致します。

天災地変等が原因の場合。酷使、故意、過失、手入れ不備等による故障。当社以外で製品の仕様を変更、または改造が加えられた事に起因する不具合。

修理銃の発送について

発送につきましては、必ず最寄りの銃砲店へご依頼下さい。いかなる場合もお客様から直接発送された修理銃はお受け出来ませんのでご注意ください。

銃砲店へ修理をご依頼される際は修理内容を明確にした修理依頼書を添付して下さい。また、保証期間内の修理の場合は内容を明記し保証書を必ず銃に添付して下さい。保証書がない場合、通常の有償修理となることがありますのでご注意ください。

(銃砲店へご依頼される際は、必ずガスを抜き取り、残弾の無い事を確認して下さい。)

安全な狩猟のために

警告

危険防止のため、次に書かれた注意事項を必ずお守り下さい。

これらの注意事項を守らない場合は、使用者や周囲の人を巻き込んだ人身事故につながる恐れがあります。必ず指示に従って行動して下さい。

- ①使用してもよい場所や時期を必ず守って下さい。
- ②二人以上で出猟する際は互いの銃口方向に注意して行動して下さい。
- ③発射の必要なきまで弾を装填しないで下さい。
- ④狩猟中の休憩時や、発射の必要がなくなったときは速やかに銃より弾を抜いて下さい。
- ⑤枝などによる暴発を防ぐために山坂や藪の中などでは用心金の上から引金部を覆って下さい。
- ⑥銃に弾を装填したまま、木登り、岩登り、溝の飛び越え、溪流徒歩などをしないで下さい。
- ⑦流弾、跳弾による事故を防ぐために発射する前に必ず前方の安全を確かめて下さい。
- ⑧銃腔破裂などの危険を防ぐために銃腔に残留物や詰まりもの(土、雪)等の異物が無いことを確認して下さい。
- ⑨出猟の際には必ず所持許可証、登録証を携帯して下さい。
- ⑩射撃しようとする目標の後方、及び周囲の人々の安全を常に確認して下さい。
- ⑪万一、転倒した場合でも銃口を安全な方向に向けることが出来るように銃を携行して下さい。

